

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 シャコ

学名 *Oratosquilla oratoria*

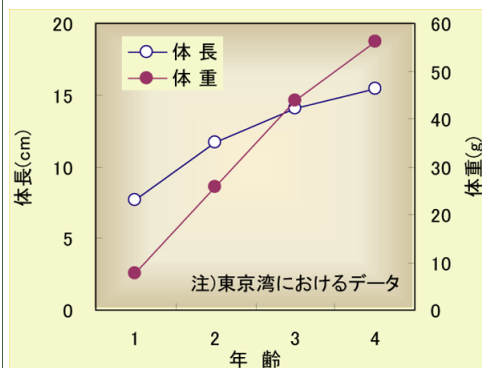
系群名 伊勢・三河湾系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 3歳(本系群の詳細は不明)
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 5～9月が産卵期で年2回(5月と8月)産卵ピークが存在、産卵個体は、春季には伊勢・三河湾内のほぼ全域に分布し、特に湾口部および知多半島西岸に多い
索餌期・索餌場: 周年湾内全域、他海域であるが、シャコの摂餌特性として、脱皮前の栄養蓄積のために9月は摂餌率が高い
食性: 伊勢湾については不明、東京湾では2～3cmの小型個体では魚類を摂餌する比率が高く、4～12cmで貝類の比率が高まり、12cm以上の大型個体では多毛類、甲殻類も摂餌して食性が多様
捕食者: 伊勢湾においては、マアナゴによる捕食が確認されている、その他の捕食者は不明

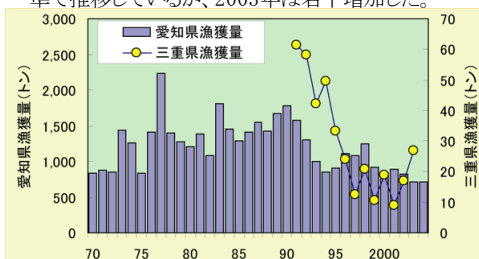


漁業の特徴

伊勢・三河湾におけるシャコは他海域と同様に小型底びき網による漁獲がほとんどであり、他には刺し網と定置網で若干漁獲されている。

漁獲の動向

愛知県における1970年以降の漁獲量は707～2,238トンの範囲で変動し、3～5年周期で増減を繰り返している。1990年までは増加傾向にあったが、1991年から4年連続して減少した。1996年から3年間1,000トンを超えたが、1999年以降は1,000トンを割り込んだ状態が続いている。2004年の漁獲量は707トンで、最近5年間で見ると、依然低い水準であるが、動向は横ばいの状態である。三重県の漁獲量も近年減少しており、1996年以降は10～30トンの低い水準で推移しているが、2003年は若干増加した。

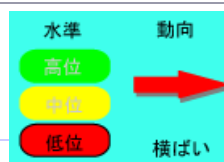


資源評価法

愛知県と三重県の漁獲量の経年変化を主体として、各県の精密測定調査結果、標本船調査結果ならびに漁場一斉調査結果をもとに資源状態を判断した。

資源状態

近年の漁獲量は愛知県、三重県ともに低い水準で推移しているが、それまでの減少傾向には歯止めがなかったようである。しかし、資源水準が低い状態は依然として継続している。



管理方策

資料が少なく管理目標が設定できない状態にあるので、生物学的特性、漁獲特性等に関する情報を早急に整える必要がある。シャコ伊勢・三河湾系群は、水産庁の推進する資源回復計画の対象種に指定されている。資源回復のためには、適切な休漁期を設定し親シャコの保護を図るとともに、漁場等の操業実態を勘案しつつ小型魚保護の観点から小型底びき網の適切な網目に関する検討を行い、小型魚の再放流を推進することが必要である。また、再放流に伴う生残率の向上を図るため、小型底びき網漁船にシャワー設備の導入を進めている。

資源評価のまとめ

- 近年の漁獲量の推移から判断して、伊勢・三河湾のシャコ資源はかなり低い水準にある

管理方策のまとめ

- 漁獲量以外の判断基準がない現状では管理目標の設定は困難
- 適切な休漁期を設定し、親シャコの保護を積極的に進める必要がある
- 小型底びき網の目合い引き上げ、小型個体の再放流を積極的に推進する必要がある

資源評価は毎年更新されます。
2005.12.8更新